

廻遊 - 追憶の玉縄城 -

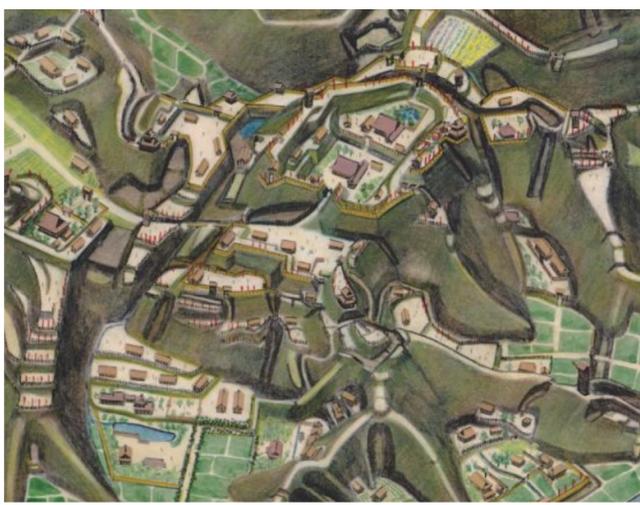


かつて上杉謙信に「この城無双の名城なり」といわれた堅城 玉縄城。
80年に渡って人々の暮らしを守ったこの歴史が地域の人々の暮らしを繋ぐ。

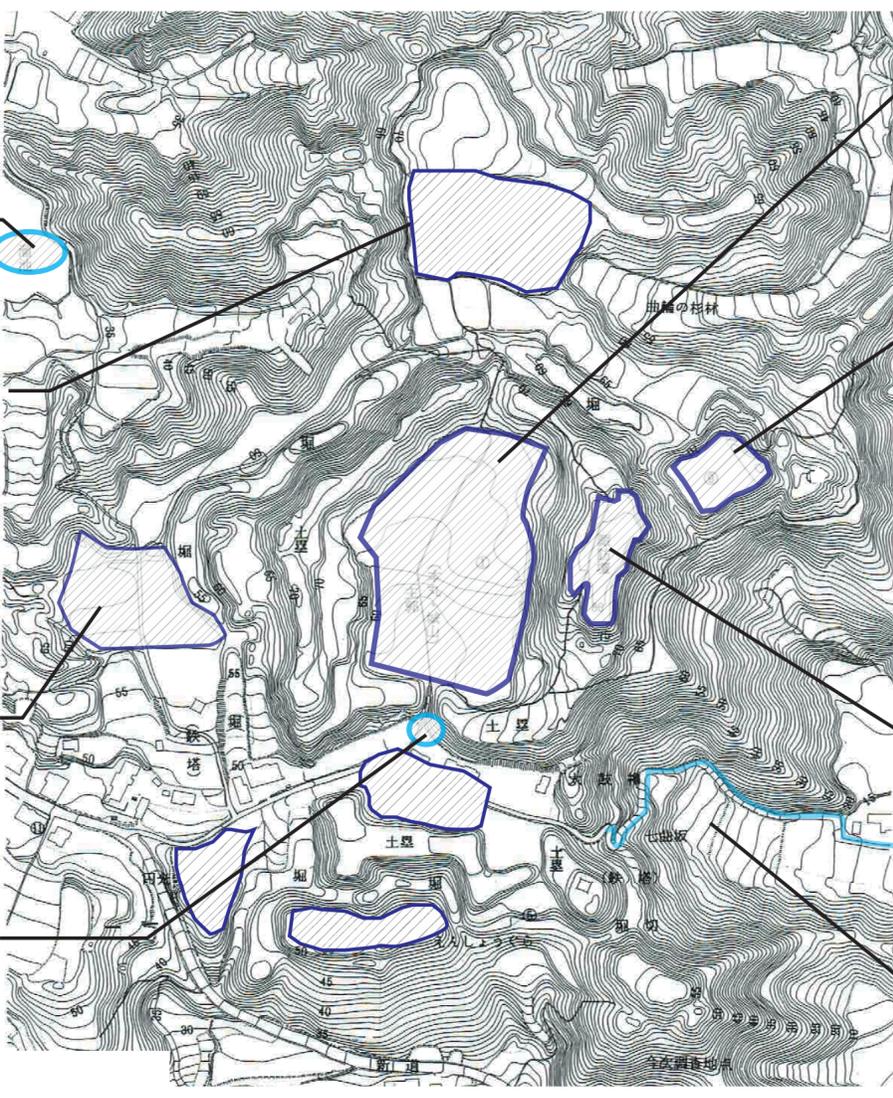
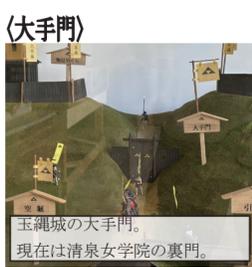
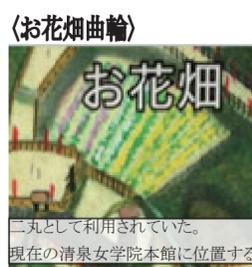
01 地域の歴史を思い起こす



神奈川県鎌倉市には城廻りという地がある。この地にはかつて室町時代後期（戦国時代初期）に北条早雲が築いた玉縄城が存在した。しかし現在は学校の校地と植生に埋もれており、応時の記憶は街中においても全く感じられない。そのため過去のお城の存在を感じられるような建築を計画する。



02 地域の記憶



03 玉縄城の歴史

1400s	1500s	1600s	1700s	1800s	1900s	2000s
1467 応仁の乱	1488 鎌倉の支配者の分裂 長享の乱	1512 北条早雲 玉縄城築城	1518 上杉朝興が玉縄城を攻める	1526 鶴岡八幡宮焼失	1532 北条早雲が鶴岡八幡宮の再建を企画	1540 北条氏綱鶴岡八幡宮正遷宮を挙行
	1556 里見義豊が玉縄城を攻める	1561 上杉謙信が玉縄城を攻める	1569 武田信玄が玉縄城を攻める	1573 鎌倉幕府滅亡	1576 北条氏勝が龍寶寺を現在の場所に移す	1587 北条綱成が亡くなる
		1590 小田原城にて北条氏滅亡 戦国時代が終る	1590 徳川家康の説得により玉縄城 無血開城	1619 徳川家康により一国一城令が発令される。 玉縄城廃城	1960 玉縄城跡地に清泉女学院が竣工	



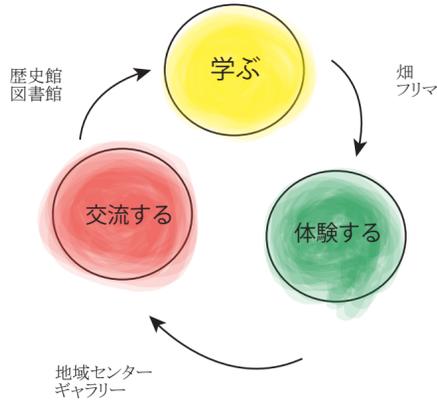
玉縄城トレイルの強化



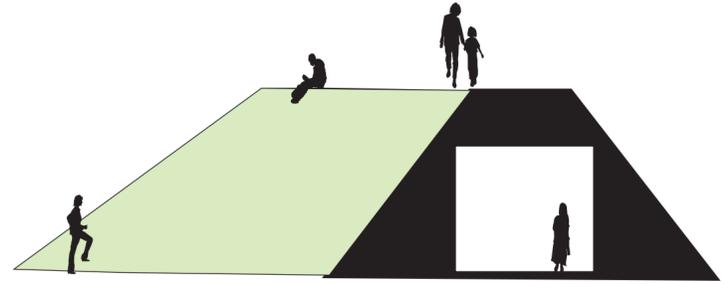
過去、存在した道の再建、トレイルスポットの追加をすることにより、現在ボランティア団体により行われている玉縄城歴史トレイルの強化を図る。
 玉縄城に関係の深い地を中心に街中を歩き回ることによって実体験的に城の規模感を知る。また地域の人の散歩道としても用いる。

過去の暮らし体験

歴史を学ぶ、実際に農作体験を行う、
 収穫物の交換や売買をする。
 当時の実際の生活を追体験し、
 歴史に触れる。



土塁建築による空間体験



玉縄城の特徴的な技術である土塁を身近に感じるため、建築に土塁を用いる。
 土塁を建築に用いることにより、玉縄城を思い起こすとともに、建築において環境面や施工面によるメリットを利用する。

マクロ

ミクロ

05 地域のピース集めトレイル

玉縄城まちづくり会議により行われている玉縄城トレイルに玉縄城に所縁の深い場所をスポットに追加し、新玉縄城トレイルとする。
 まちを歩きながら城の規模感を感じる。また過去の暮らしを学び、山の地形の保護管理について学ぶことができる。

溜池

過去、城の人々の生活を支えた「溜め池」を中心に図書スペースと共用畑で過去を学び、ボランティアによる山の管理維持、保全活動で未来に繋ぐ。

諏訪壇 蹴鞠場

過去七曲坂側の防御拠点であった諏訪壇は過去を守るための歴史館となり、鶴岡八幡宮への遠拝所であった蹴鞠場は、その用途を受け継ぎながら地域のプリマ、イベントスペースとして、新しい地域の交流の場となる。
 ここでは過去の人々の思いを想像し、繋がる事が出来る。

七曲坂

かつて玉縄城の大手門への主要道であった七曲坂は地域センターとしてこの地域の中心拠点となる。かつてのようにこの道が地域の軸となるようにふたたびこの道を蘇らせる。

くいちがい

過去「三丸」であったくいちがいは、地域の人々や学校の生徒たちの作品を展示するギャラリーと龍宝寺の歴史館にある過去の道具を展示する歴史倉庫として使われる。ギャラリーによる展示やレクチャーにより交流をし、歴史倉庫で過去を学び、奥の溜池の暮らし体験に進む、過去への玄門口。

龍寶寺

玉縄城に所縁の深いお寺で、現在も玉縄城に関する歴史館がある。歴史館の二階には古く道具などが展示されている。玉縄城トレイルのスポットの1つである。

大手門址

応時は玉縄城の大手門であった。現在は清泉女学院の裏門となっている。玉縄城トレイルのスポットの1つとして看板が設置されている。

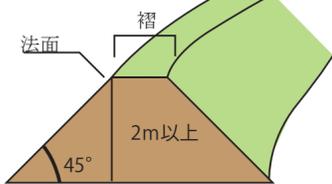
太鼓櫓址

太鼓櫓は七曲坂側から攻めたる敵を防ぐための防衛拠点であった。現在は地域の小さな公園になっており、玉縄城トレイルのスポットの1つになっている。

城主の館址

かつて城主の館があったとされる。三棟並んで建てられており、現在は地域の公園になっており、玉縄城トレイルのスポットの1つとなっている。

〈土塁〉



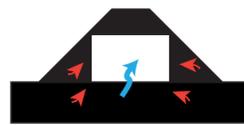
〈土塁の規則〉
 角度45° にすることで攻めにくさと崩れにくさのバランスを保つ。
 高さは2m 以上とする。

空間を区切る



3m 程の土の壁で空間を区切る。

土壌による温度管理

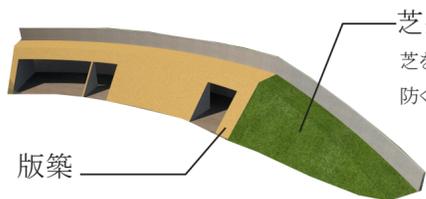


土壌の断熱機能により土塁内のピットに風を通す事で年間を通した温度管理をする。

外部からのアプローチ



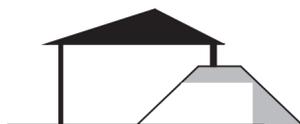
土塁の傾斜により自然と建築内部へと迎い入れる。



芝生
 芝を植え、法面の崩れを防ぐ「芝土居」を採用する。

版築

開放的
 マスとボイド



閉鎖的

施工性



敷地の土を建築素材として使用する。

地域の人の施工参加



施工に参加し、土塁技術の継承と共に土塁に関する理解を深める。

全体構成



大屋根

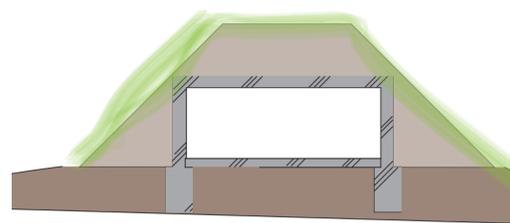
鉄骨造 柱、梁

土塁

RC 造

土塁部分：RC 構造

土塁の中を掘り込み、RC 造で空間を作る。また表面の土が崩れにくくするための芝生を貼る。屋内に面する部分は版築で加工する。



RC 造

RC 造によって土塁内部に空間を確保する。土塁による施工性や湿度温度管理などを容易にする。

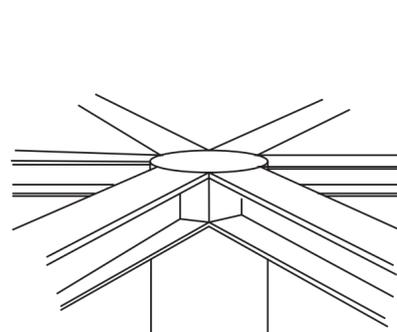


版築

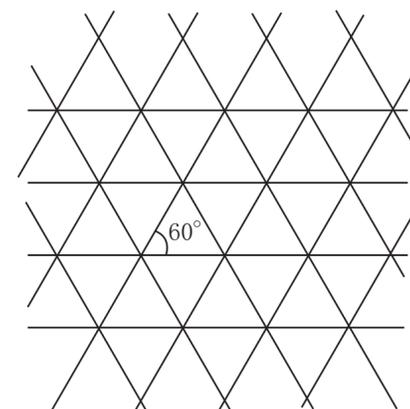
版築で加工することで土塁同様地域の人が施工に携われる。

屋根部分：鉄骨造

鉄骨造とトラス構造の屋根により柱の太さを抑え、周りの植生のスケール感を揃える。鉄骨造を採用することで温度変化による膨張収縮に対応する。トラスの屋根にすることにより周りの複雑な地形に対応する。

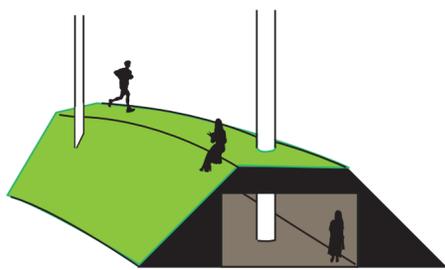


鉄骨



トラス構造

土塁と屋根の関係



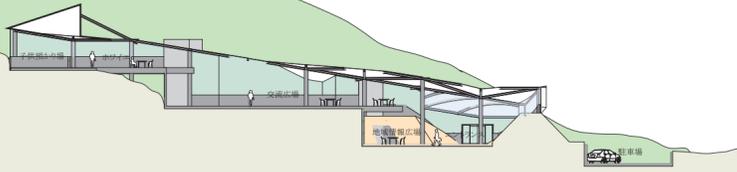
自由な自然な曲線の土塁に人工的なグリッドの柱が落ちること
 で土塁の存在感が際立たされる。

七曲坂

用途：地域センター

七曲坂を過去のような街の軸とする。

また玉縄城まちづくり会議のような地域の方々の交流拠点となる。



図面 s=1:500 A-A' 断面図

溜池

用途：図書館、共用農地

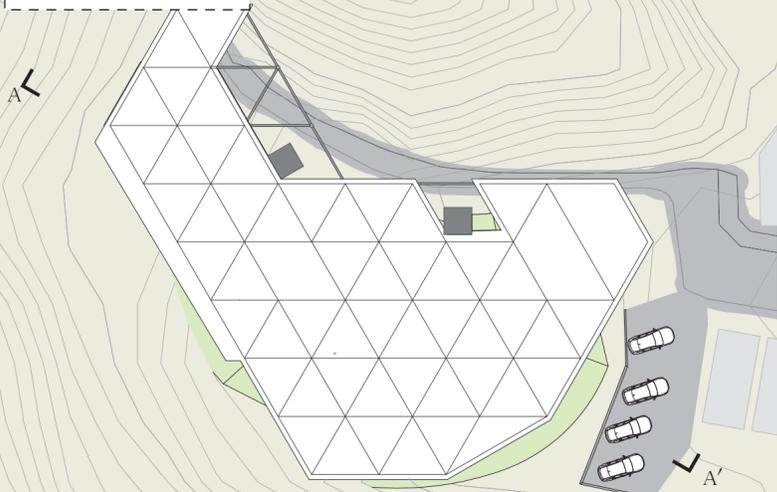
過去玉縄城の人々の生活を支えた水を中心に野菜や植物を育てる体験をする。

またその為の知識や歴史を図書館で学ぶ。

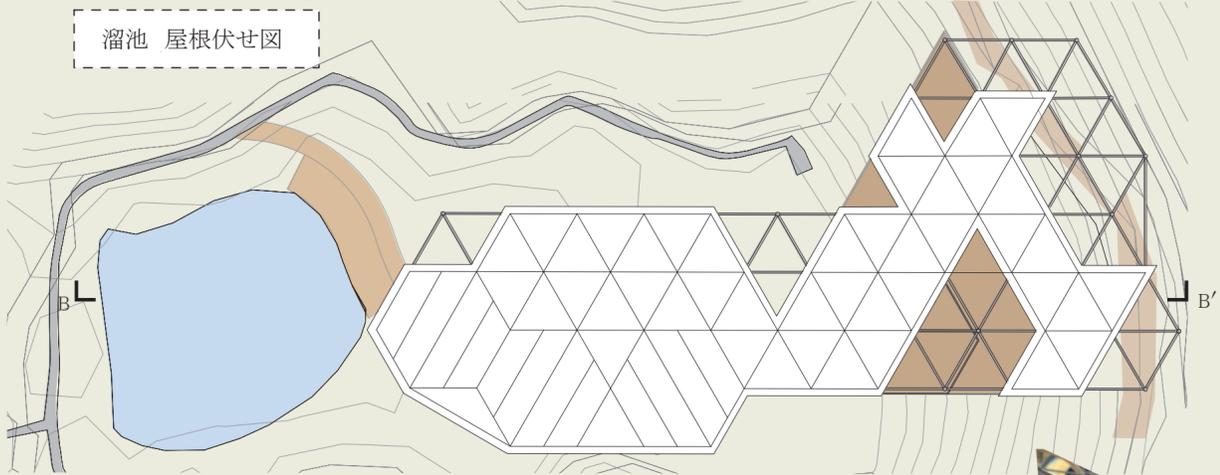


図面 s=1:500 B-B' 断面図

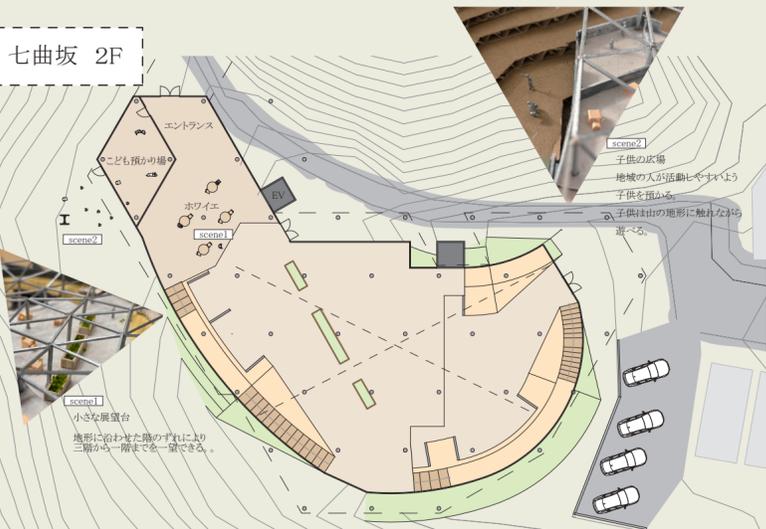
七曲坂 屋根伏せ図



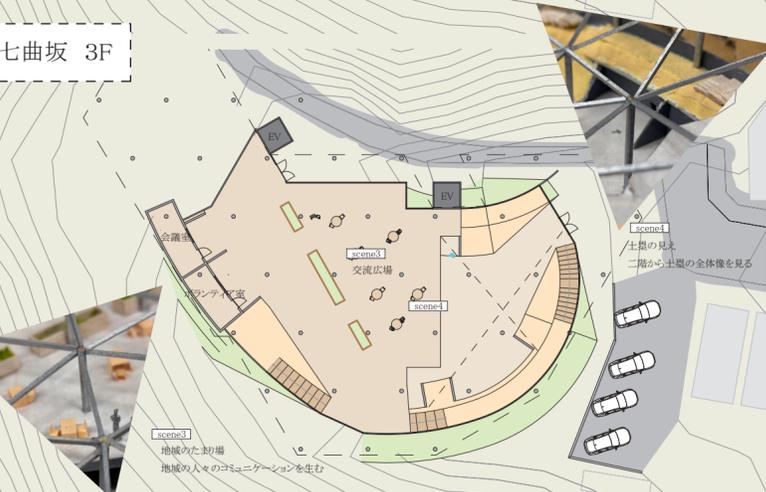
溜池 屋根伏せ図



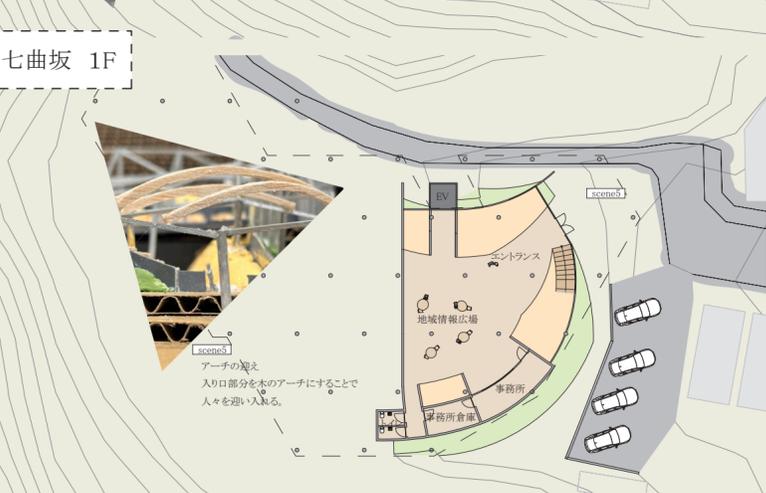
七曲坂 2F



七曲坂 3F



七曲坂 1F



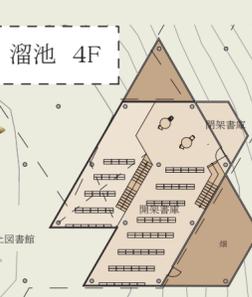
溜池 2F



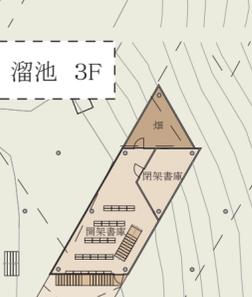
溜池 1F



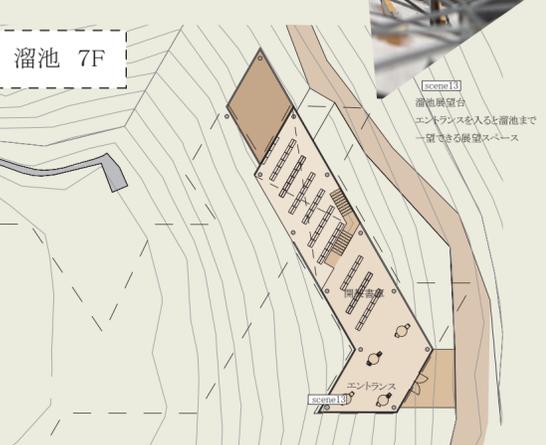
溜池 4F



溜池 3F



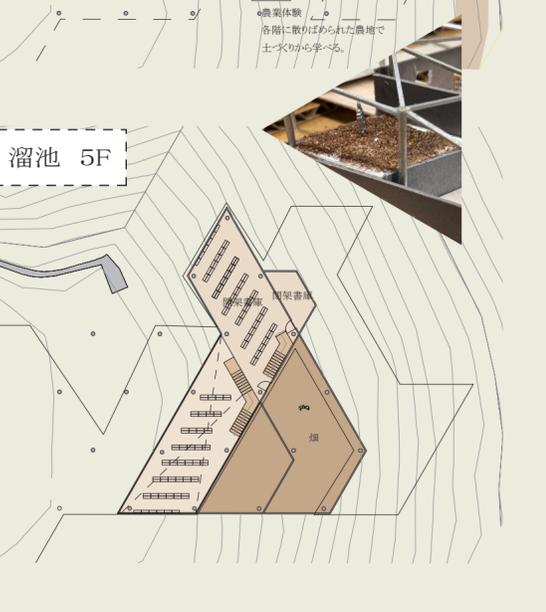
溜池 7F



溜池 6F

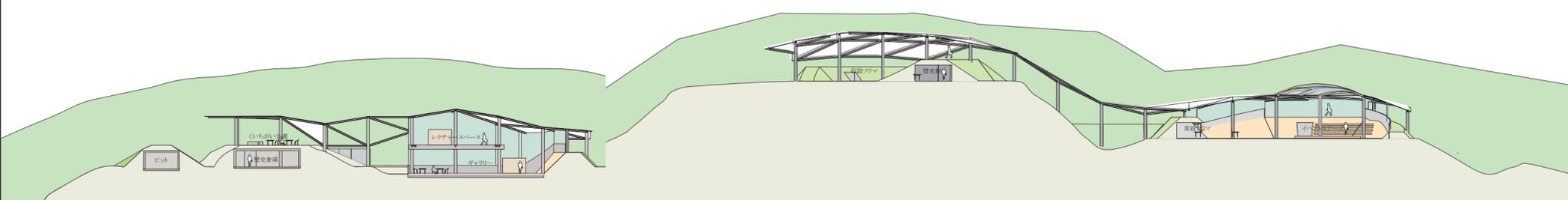


溜池 5F



くいちがい曲輪
 用途：歴史倉庫 ギャラリー
 昔の道具や暮らしの様子を展示する歴史倉庫。
 地域の人々や周辺の学校の生徒の作品などを展示するためのギャラリー。

蹴鞠場曲輪、諏訪壇曲輪
 用途：歴史館、フリマ、イベントステージ、遥拝所
 玉縄城の歴史を学ぶ。また農地で育てた野菜や物をやり取りし、交流する。
 また蹴鞠場では当時の方々と同じように鶴岡八幡宮への祈りを捧げる。



図面 s=1:500 C-C' 断面図

図面 s=1:500 D-D' 断面図

